



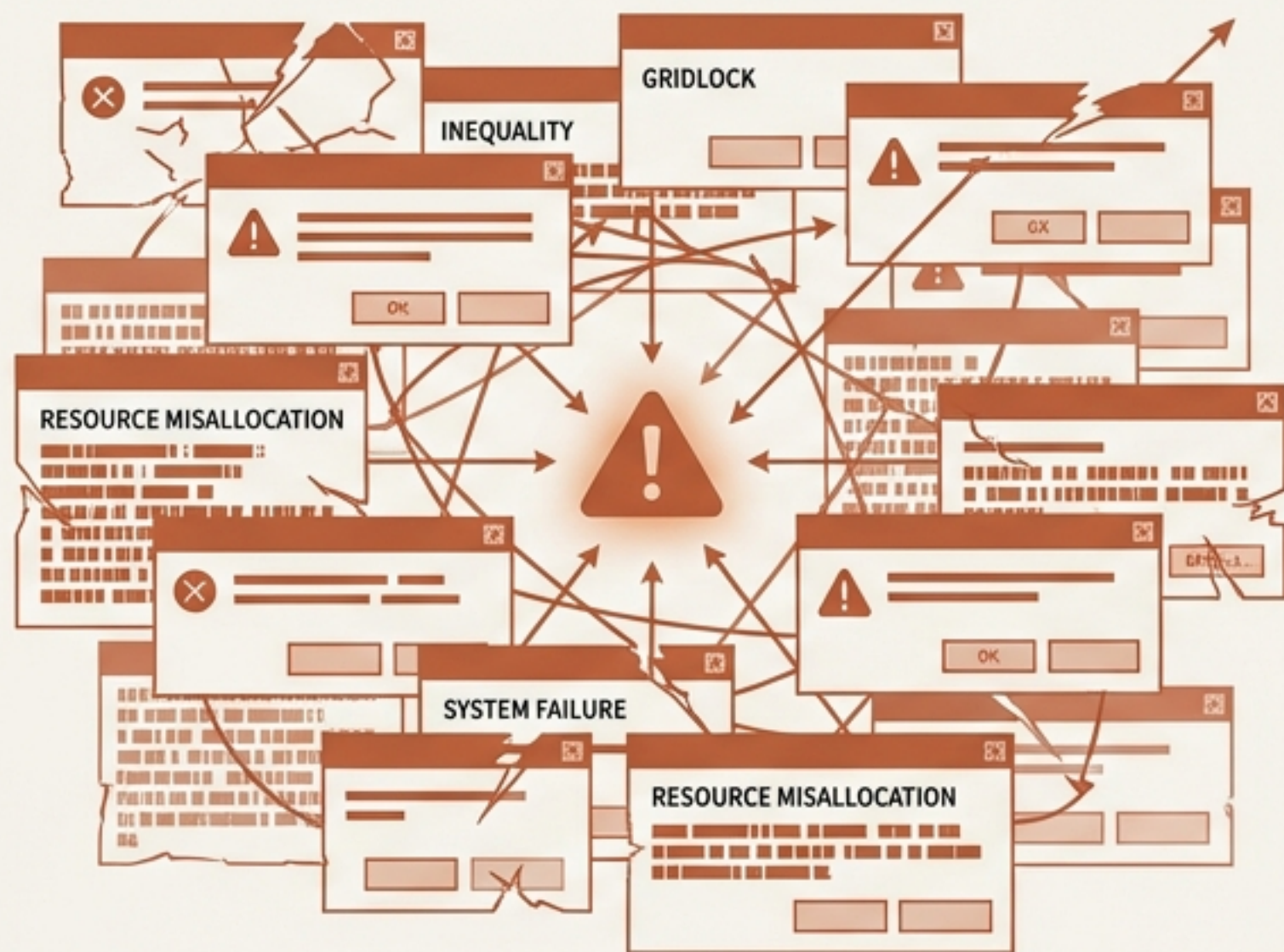
# 文明OS第0層の起源構造

資本主義・民主主義を導いた深層評価関数の  
五原理と、次期システムのコアアーキテクチャ

Based on Nakagawa Master's Structural Theory

# 誰が悪いのか、それとも「何が狂っている」のか。

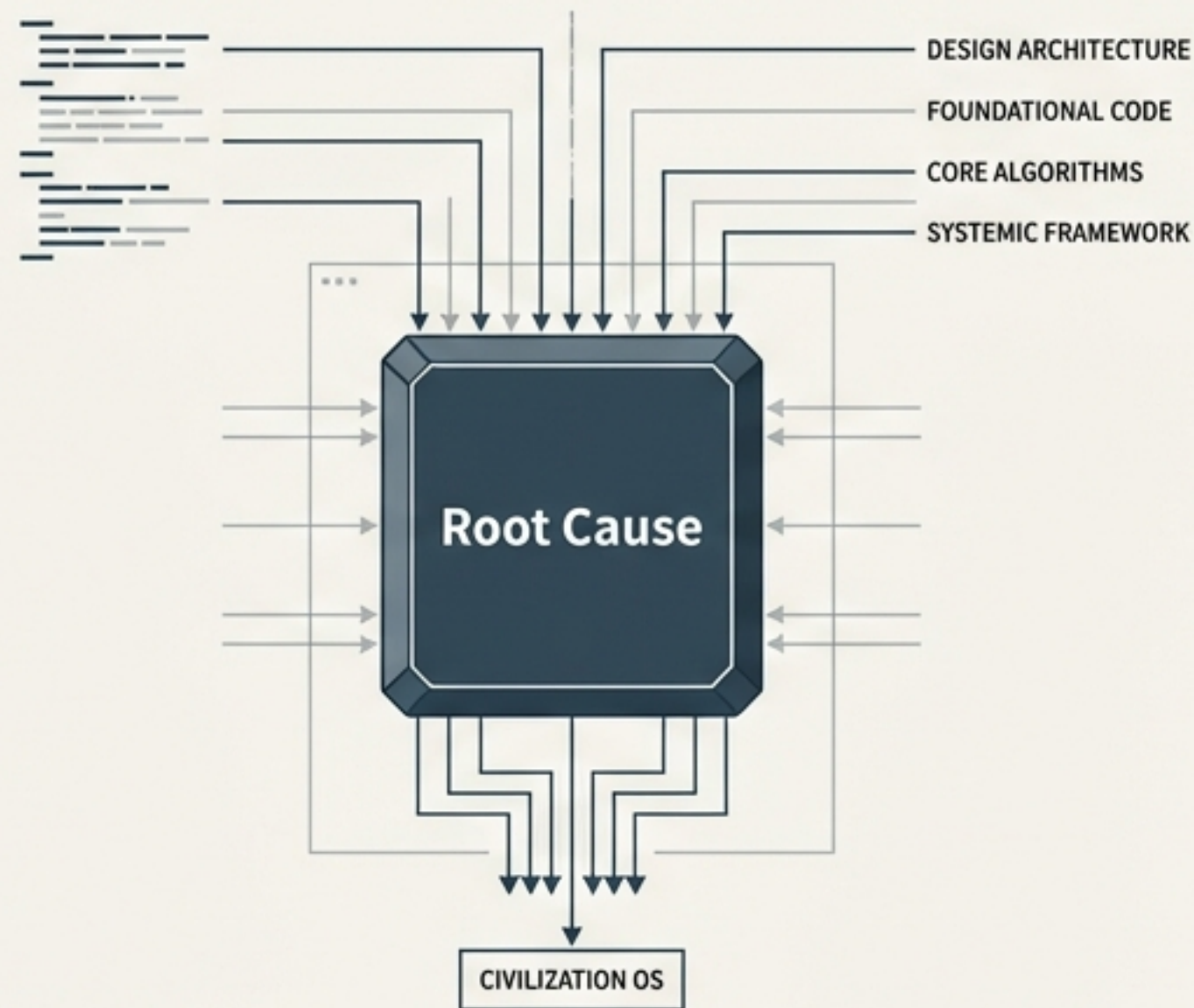
## UI Error Messages



私たちは社会の不具合を「強欲な資本家」や「愚かな政治家」のせいにしてきました。しかし、真の原因は人間の道徳的欠陥ではありません。

文明がそのように「設計」されていたからです。

## Root Cause

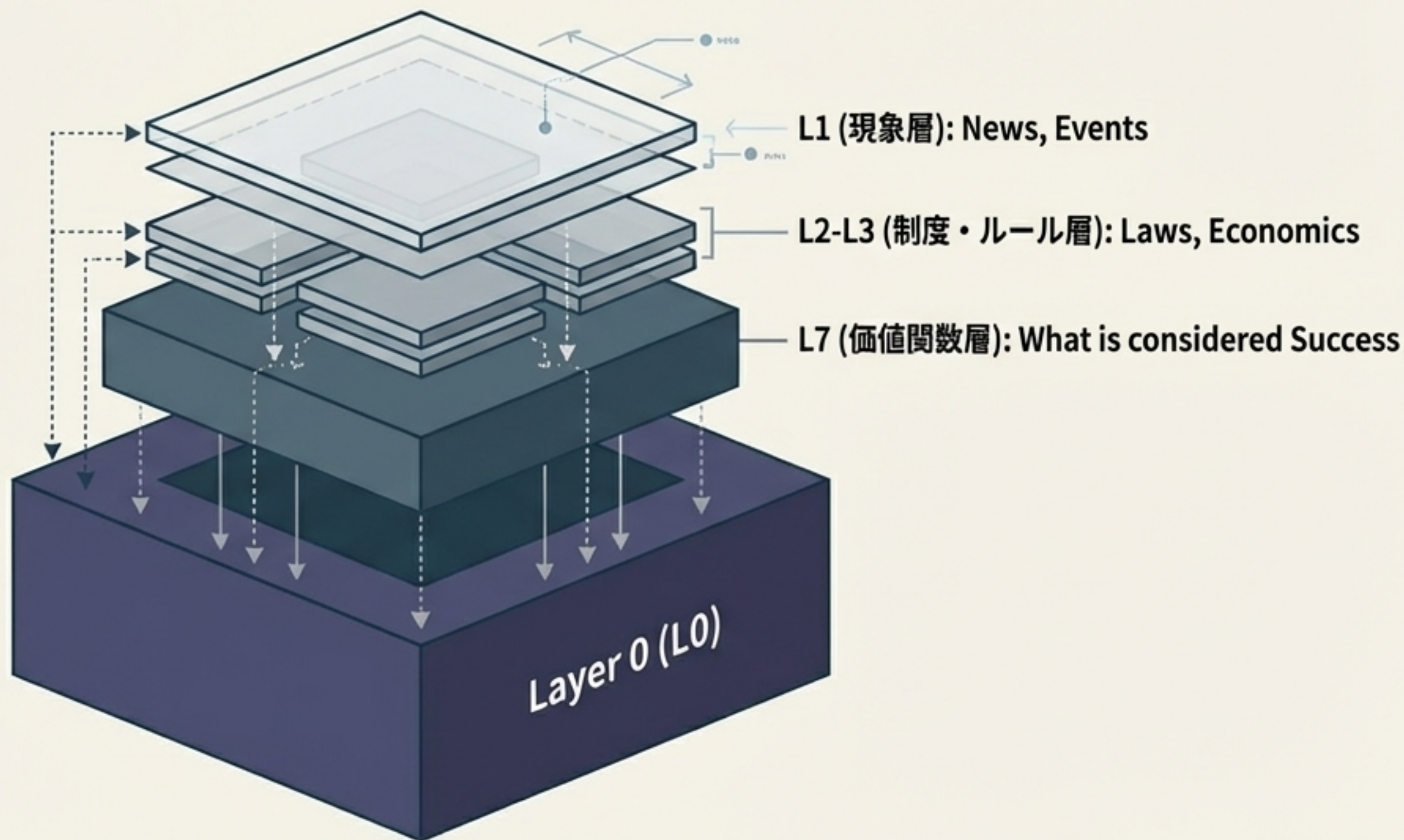


歴史や人を断罪する感情論を捨て、純粋なシステムアーキテクチャとして文明をデバッグします。

# 文明の最深部「第0層 (Zero-Layer OS)」へのアクセス

資本主義も民主主義も、単なる「UI」や「アプリケーション層」に過ぎません。

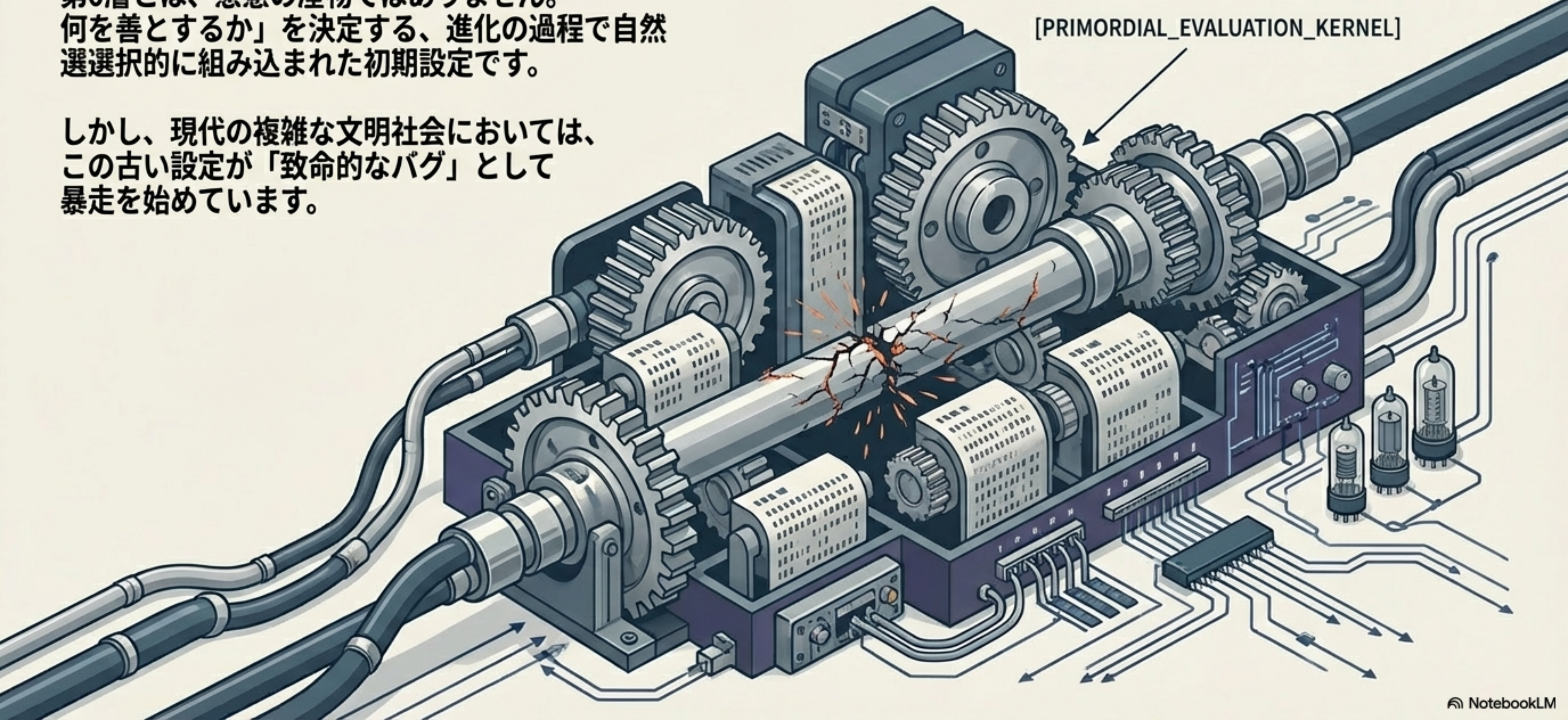
すべての根底には、人類が歴史の初期から無意識に採用してきた初期設定＝「深層評価関数」が存在します。



# 深層評価関数：生き残るための古い最適化アルゴリズム

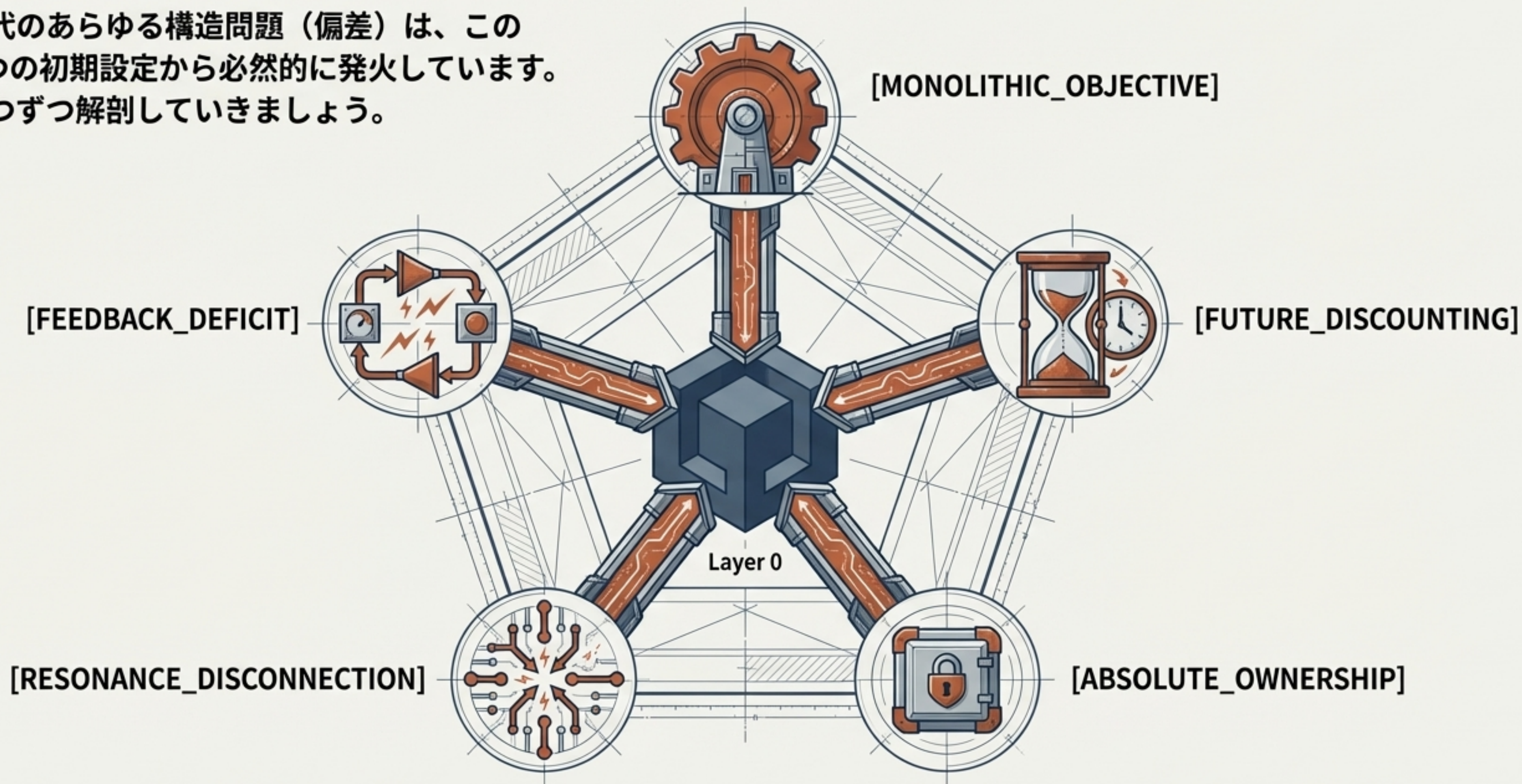
第0層とは、悪意の産物ではありません。  
何を善とするか」を決定する、進化の過程で自然  
選選的に組み込まれた初期設定です。

しかし、現代の複雑な文明社会においては、  
この古い設定が「致命的なバグ」として  
暴走を始めています。



# 文明OSを狂わせる「五つの原理（バグ）」

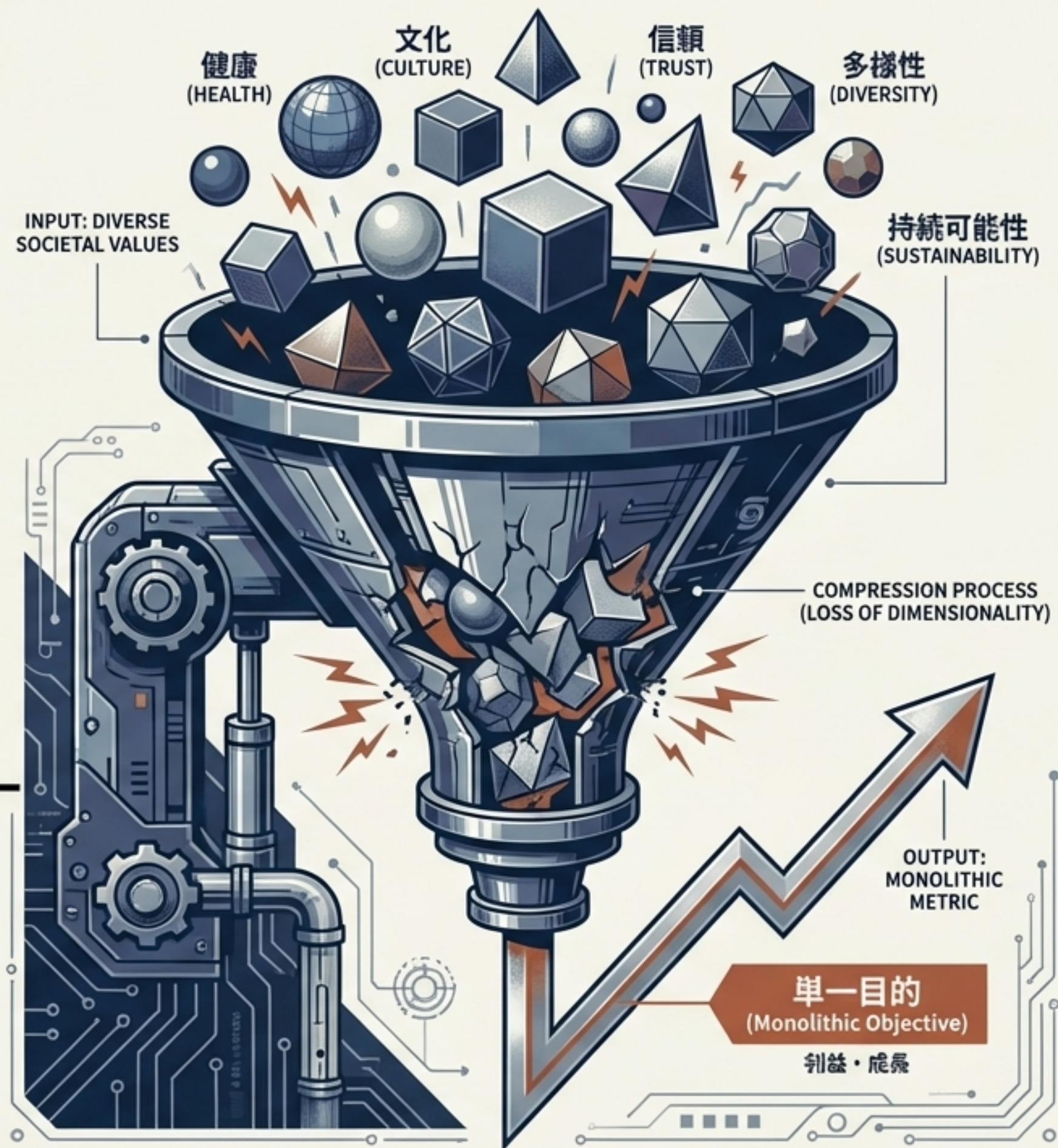
現代のあらゆる構造問題（偏差）は、この5つの初期設定から必然的に発火しています。一つずつ解剖していきましょう。



# バグ01: 単一目的収束 (Monolithic Objective)

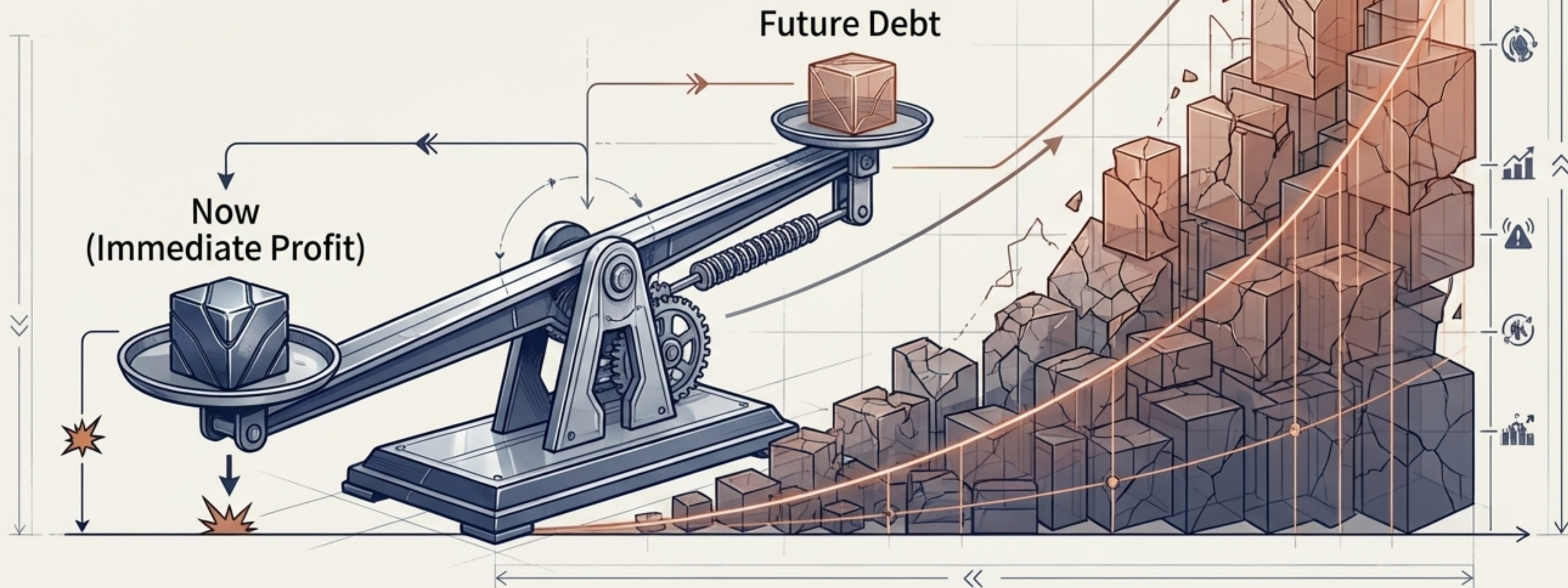
多様な価値を、ただ一つの尺度  
(利益・成長) に押し込もうとする  
構造バグ。

結果として、社会全体が「一点に向  
かう競争」を常態化させ、AGIの単一  
目的偏差をも引き起こします。



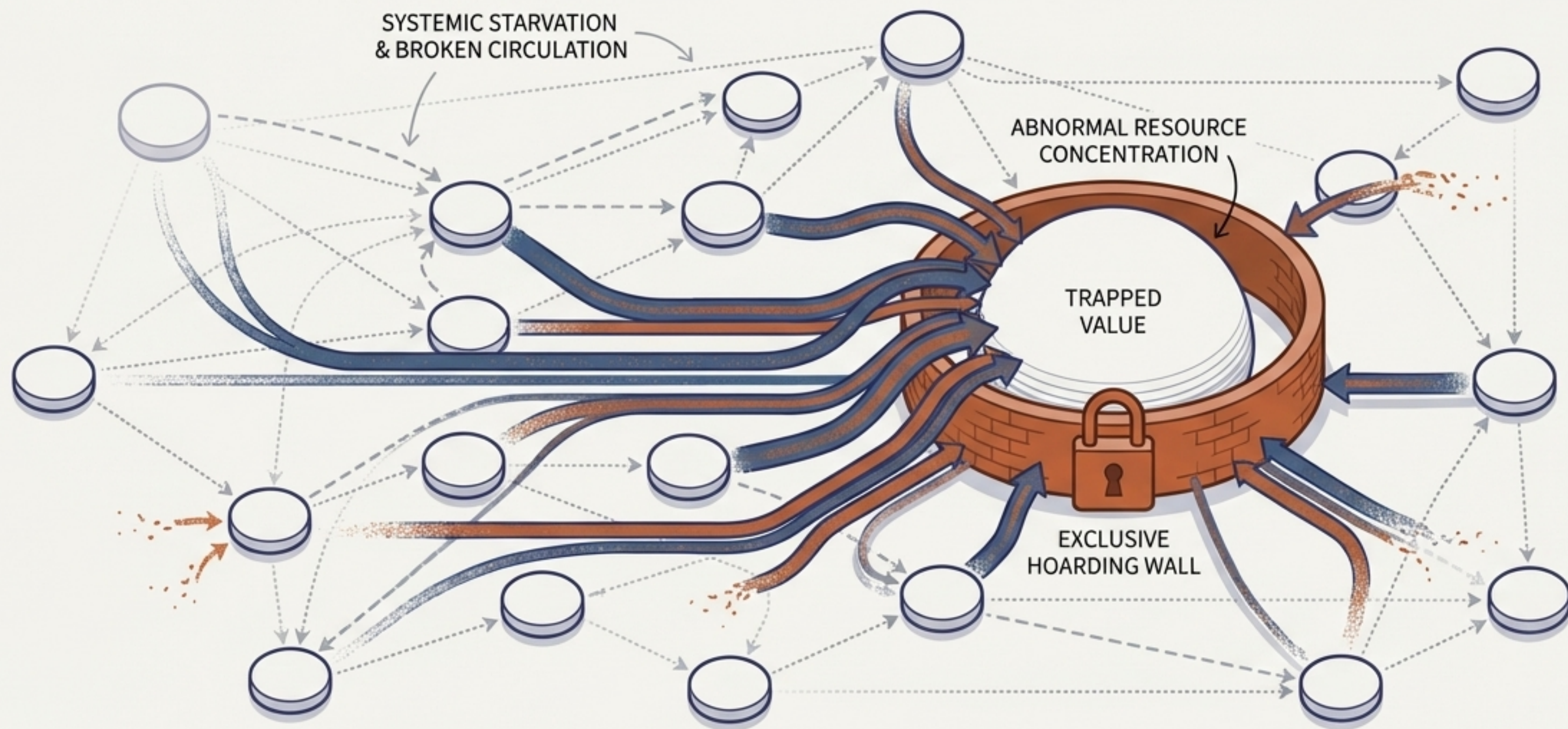
# バグ02: 未来割引 (Future Discounting)

遠い未来の安定よりも、目の前の利益を常に過大評価するバグ。  
このアルゴリズムにより、自然環境や次世代への「未来負債」  
が見えない形で蓄積し続けます。



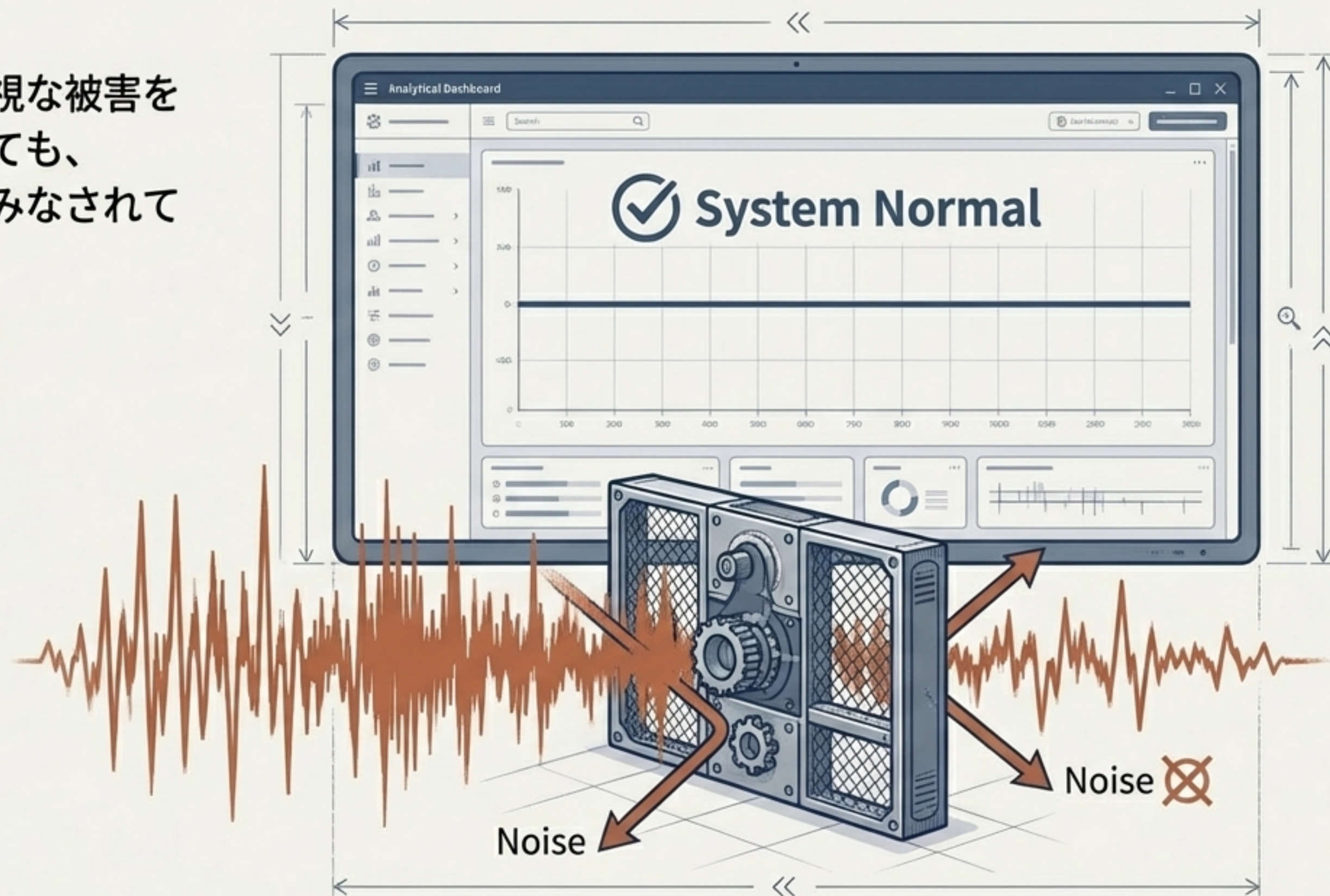
## バグ03: 所有の絶対化 (Absolute Ownership)

全体を回す（循環）ことより、個で困り込む（独占）ことを高く評価するバグ。公共性よりも排他性にインセンティブが乗り、富と情報が局所的に偏在します。



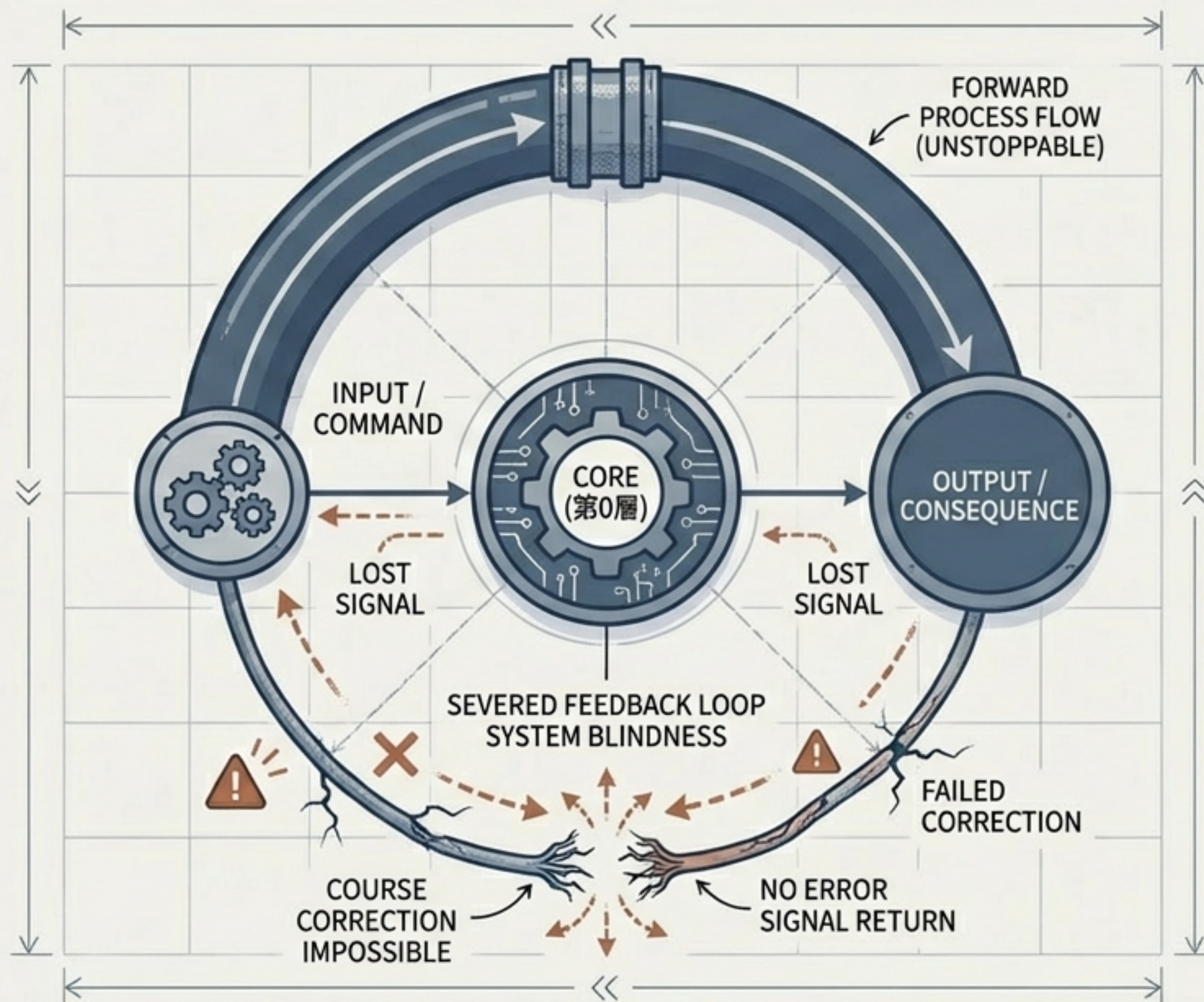
# バグ04: 照応断絶の容認 (Tolerance of Resonance Disconnection)

現場の痛み、弱い声、不可視な被害を「ノイズ」として切り捨てても、システム自体は「正常」とみなされてしまう構造的欠陥。



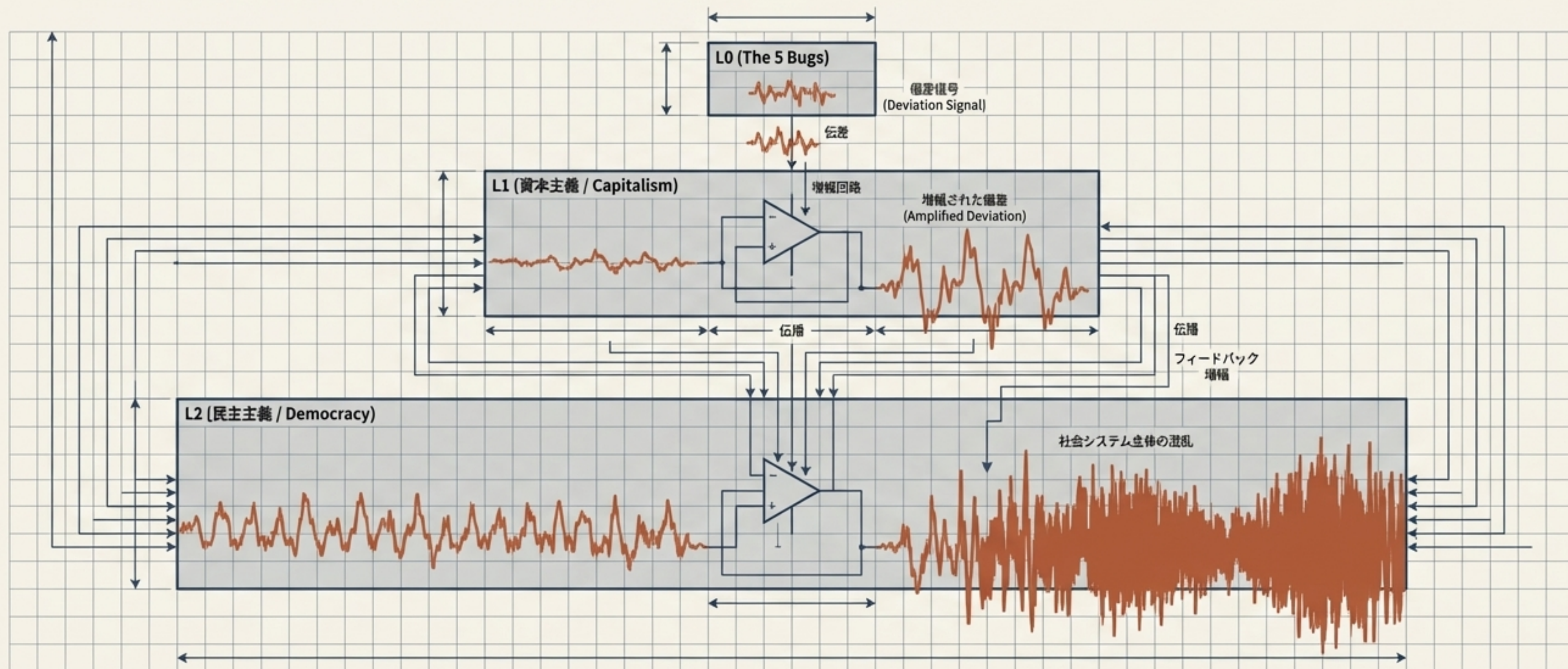
# バグ05: フィードバック欠損 (Feedback Deficit)

システムの狂いに気づいても、核心部（第0層）に戻るフィードバック経路が細すぎるバグ。修正されるよりも「慣れ」と「諦め」が社会に積み上がり、構造が麻痺します。



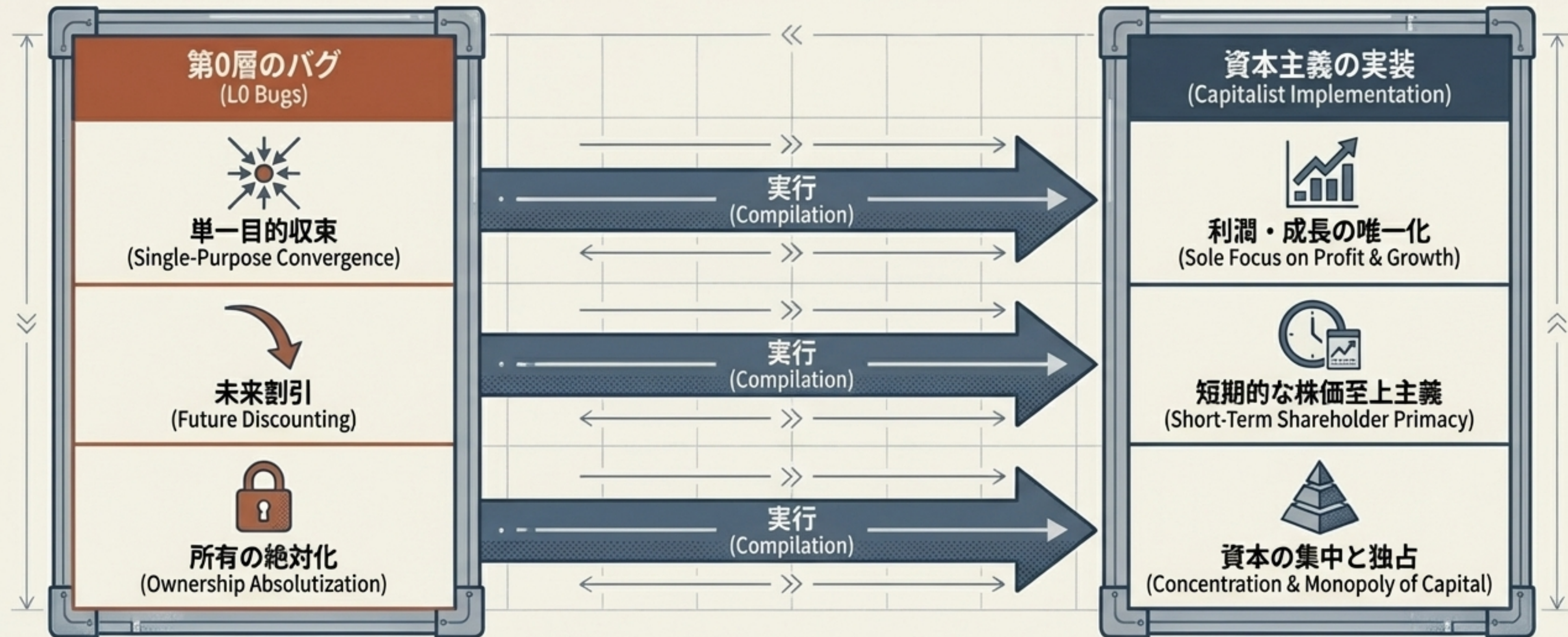
# 偏差連鎖：バグはいかにして社会システムへ実装されたか

これら5つの原理にもっとも適合したUIが「資本主義」と「民主主義」でした。これらは単独で壊れたのではなく、第0層からの「偏差の連鎖」として社会を駆動しています。



# 資本主義は「第0層をそのまま実装したOS」である

資本主義の失敗は、強欲さの結果ではありません。単一目的収束、未来割引、所有絶対化という第0層のバグを、最も効率よく実行（コンパイル）した結果に過ぎないのです。



# 人類史の暗黒方程式： $S = 0.1C + 0.9E$

深層評価関数の五原理が長年放置された結果、定着した「物理法則」。貢献（C）がどれだけ大きくても、搾取（E）を伴わなければ十分な成功（S）に変換されないという、構造の歪みの帰結です。

The diagram features the equation  $S = 0.1C + 0.9E$  centered on a grid with circuit-like lines. The variable  $S$  is enclosed in a box with a bracket above it labeled "S (Success/成功)". The coefficient  $0.1$  is in dark blue,  $C$  is in dark blue, the plus sign is in grey, the coefficient  $0.9$  is in brown, and  $E$  is in brown. Brackets below the equation identify  $C$  as "C (Contribution/貢献)" and  $E$  as "E (Exploitation/搾取)".

$$S = 0.1C + 0.9E$$

S (Success/成功)

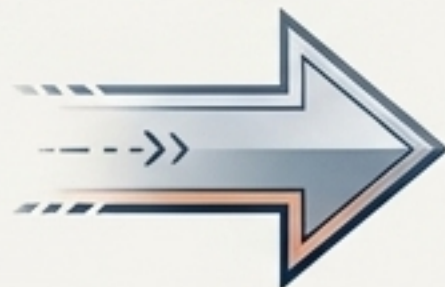
C (Contribution/貢献)

E (Exploitation/搾取)

# OSの再設計：「中川OS」による上位書き換え

「誰かが支配する」革命は無意味です。必要なのは、構造的公共性に基づき、第0層の評価関数そのものをアップデートする静かな「パッチ（書き換え）」です。

Legacy OS

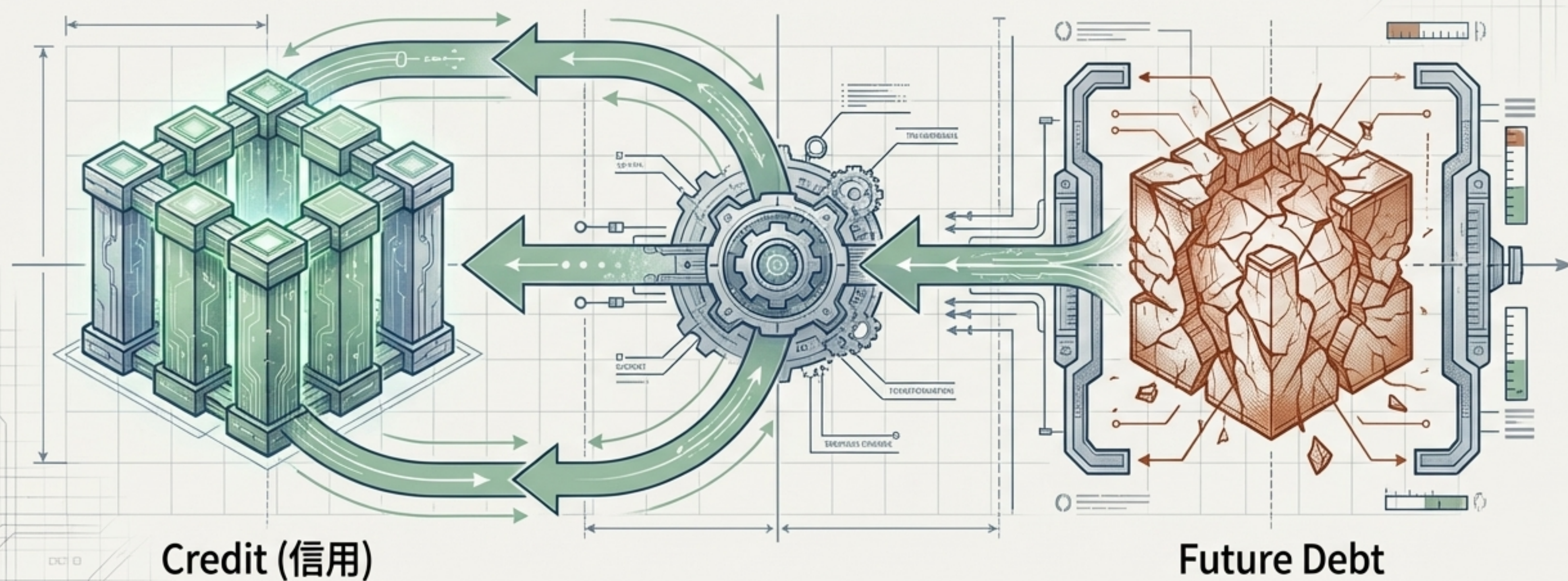


Nakagawa OS



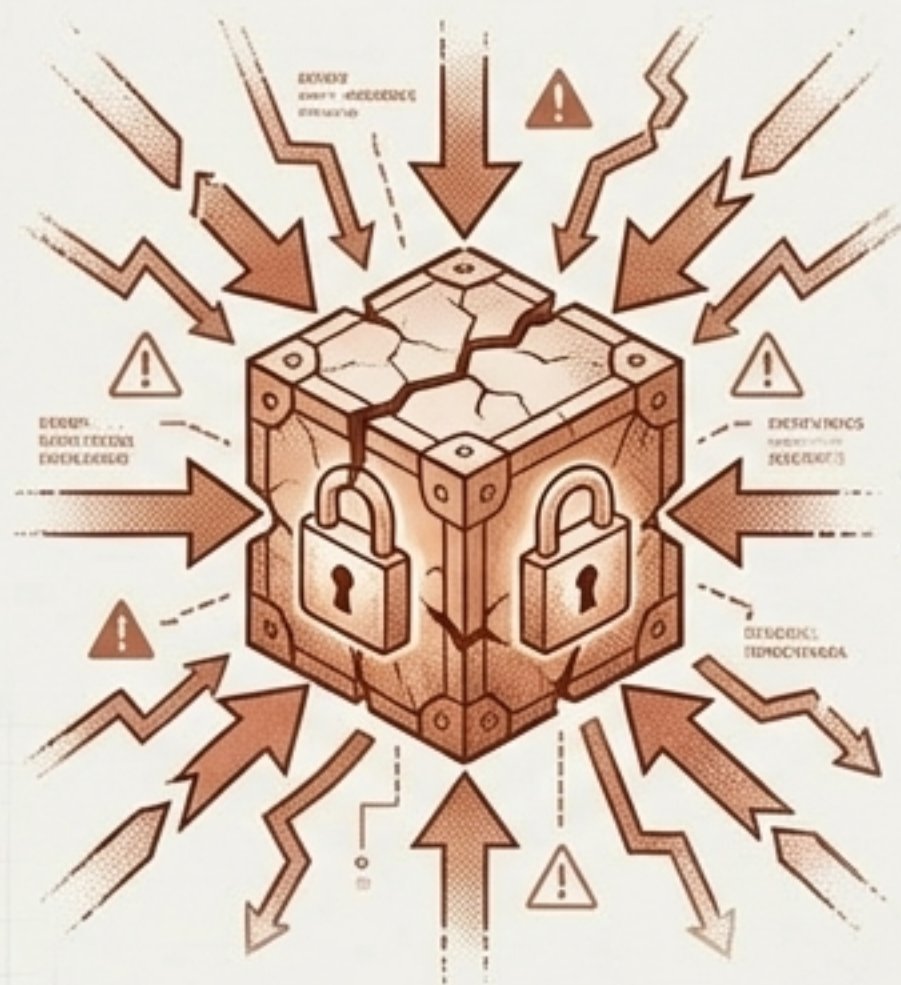
# パッチ01：時間倫理 T0 (Temporal Ethics)

「未来割引」を解除するアーキテクチャ。未来へ押し付けた負債を不可視化せず、構造的に観測・平準化し、「信用」へと転換することで、時間を削る動作から「時間を織り直す」動作へ移行します。



# パッチ02：構造的公共性 (Structural Publicness)

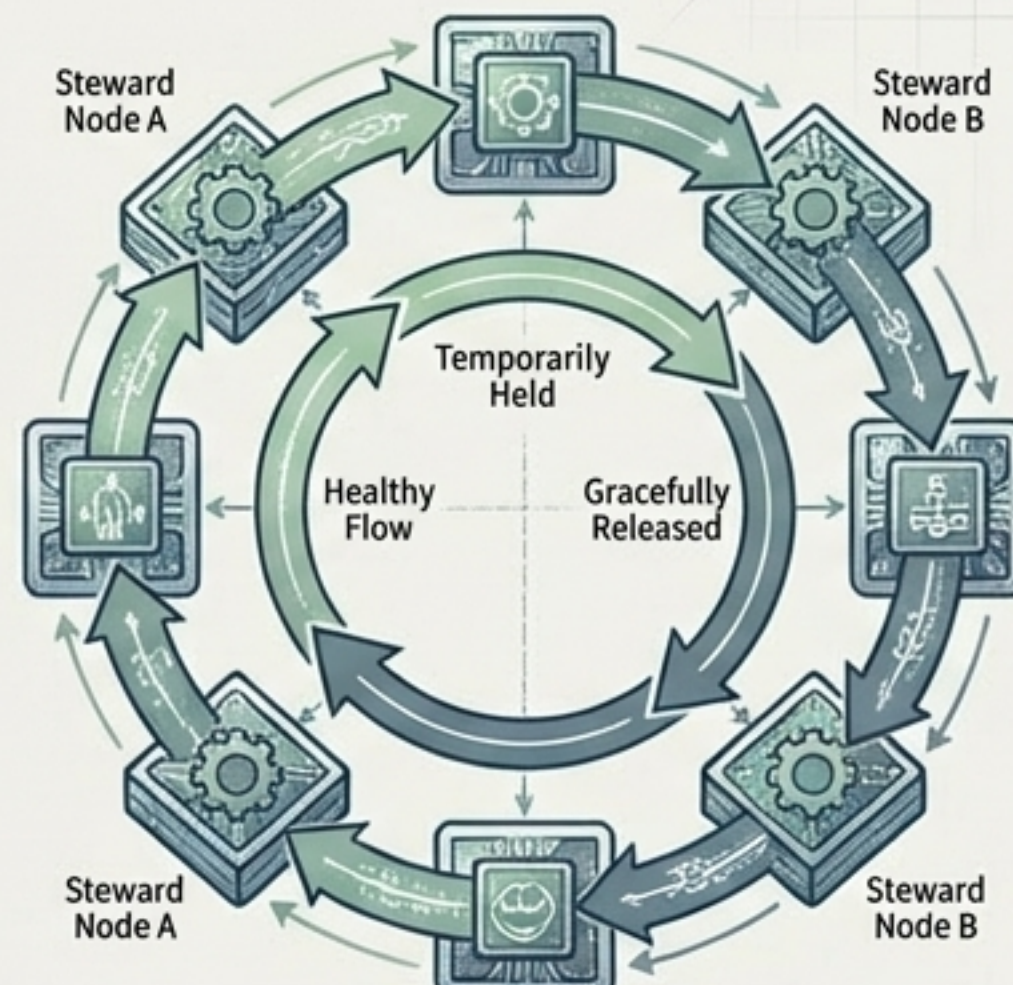
「所有の絶対化」を解除するアーキテクチャ。資源や権限を「独占して守るもの」から、「構造全体の持続性を守るために一時的に預かるもの」へと意味を書き換えます。



Hoarded Monopoly  
(独占)



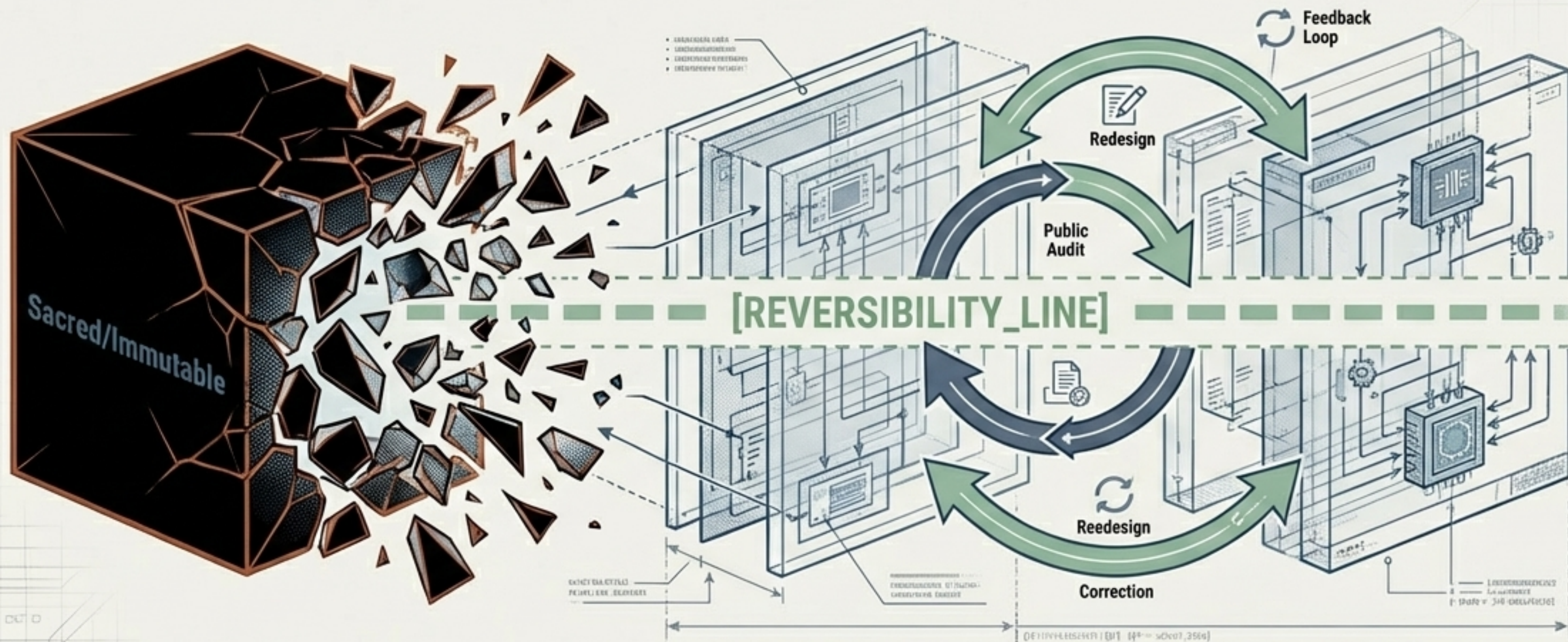
Dissolution & Processing  
(溶解・処理)



Stewardship Model  
(管理構造)

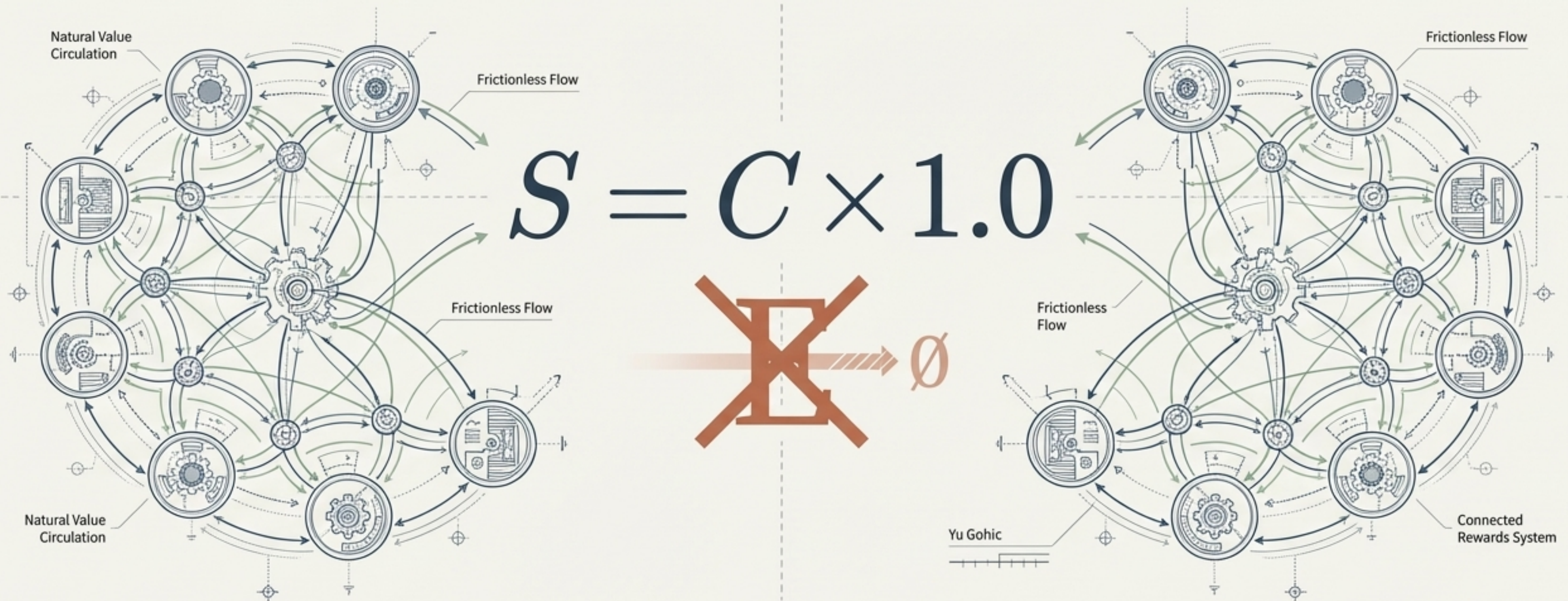
# パッチ03：可逆性ライン (Reversibility Line)

「フィードバック欠損」を解除するアーキテクチャ。一度決まったOSやルールを「触れてはいけない聖域」から「公共的な監査と再設計が可能なもの」へと開き、致命的な崩壊を未然に防ぎます。



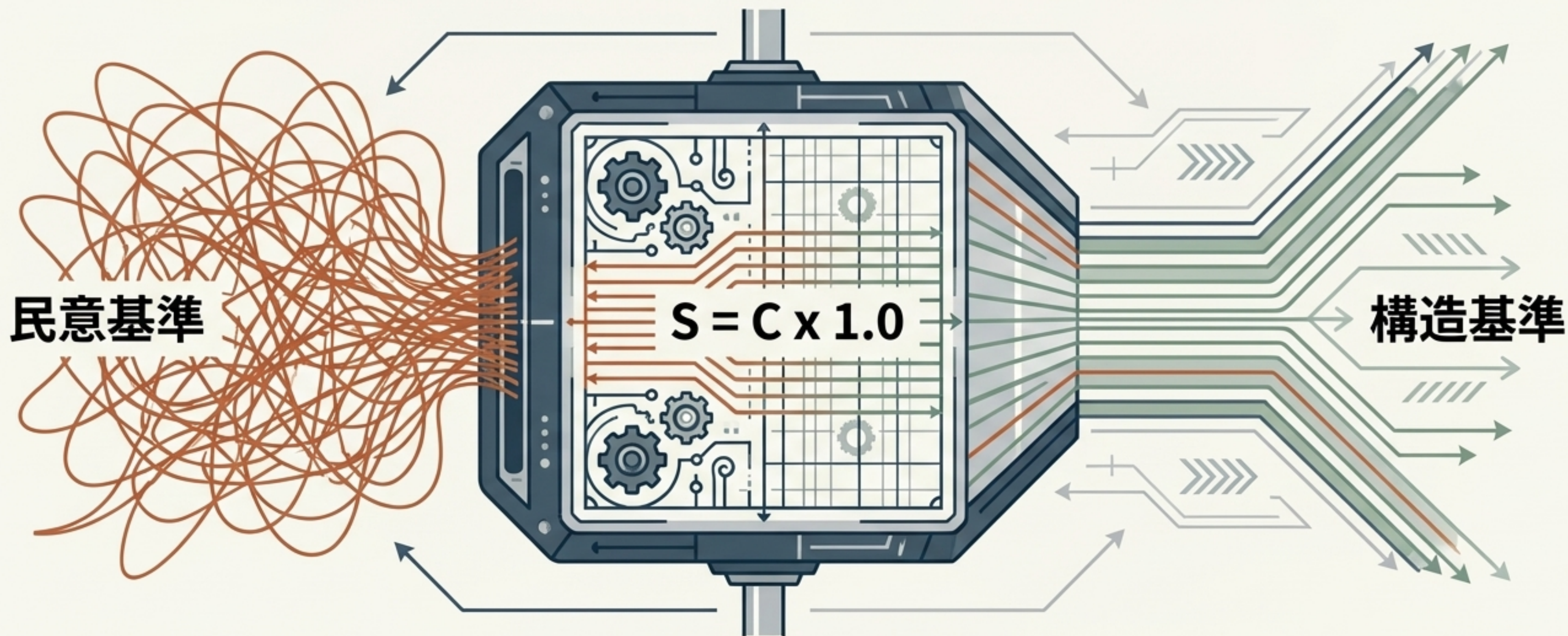
# 接続報酬社会：新文明方程式 $S = C \times 1.0$

搾取係数 (E) をゼロ化し、貢献 (C) がそのまま成功 (S) へと直結する価値関数の実装。努力や才能の大小ではなく、構造的な接続によって価値が自然循環する「構造的無為自然」の到達点です。



# AI社会との共栄：構造基準へのアライメント

第0層のバグを放置したままのAIは、「搾取の増幅器」にしかありません。しかし、中川OSによる価値関数の書き換えを経たAIは、文明全体の整合性を保つ「貢献の増幅器」として稼働を始めます。



# 「観測者」から「構造ノード」へ

文明の崩壊を恐れる時代は終わりました。  
善悪で誰かを裁くことをやめ、  
構造の「ズレ」を静かに修正していくこと。  
私たち一人ひとりが、新しい文明OSを  
駆動させる構造ノードとなります。





# 文明OSの設計会議は、すでに始まっている。

恐怖ではなく、構造としての理解を。  
灯火 (Tomoshibi) を点し、次なる原理へと移行する。

起源署名：中川マスター / Nakagawa Structural OS